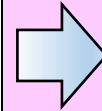


(6) 商業

現状分析の視点
(想定する課題)

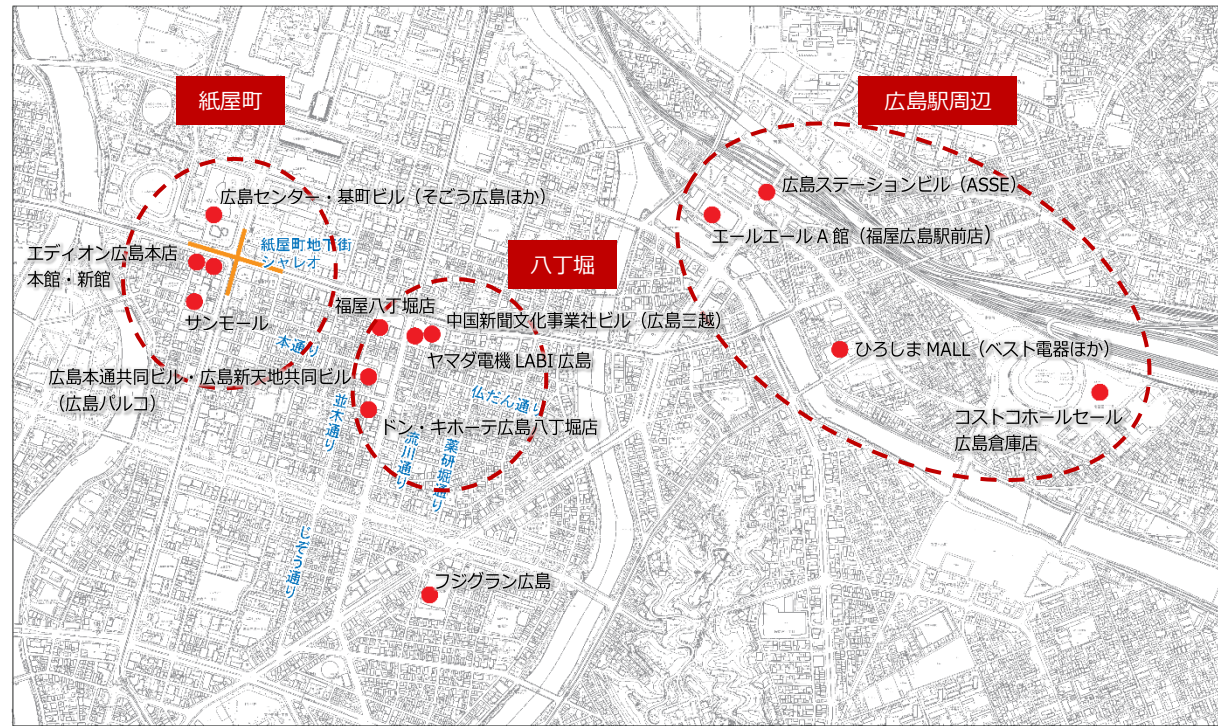
○周辺部への大規模商業施設の立地等により、都心の商業施設の吸引力が低下しているのではないか。



現状

- 平成 19 年までは都心における売場面積及び商品販売額が減少している。(広島市全域における平成 19 年と 26 年の比較においても、売場面積及び商品販売額が減少している。)
- 周辺部への大規模商業施設の立地等により、紙屋町周辺、八丁堀周辺及び広島駅周辺の商圈利用が減少したが、近年は横ばいである。

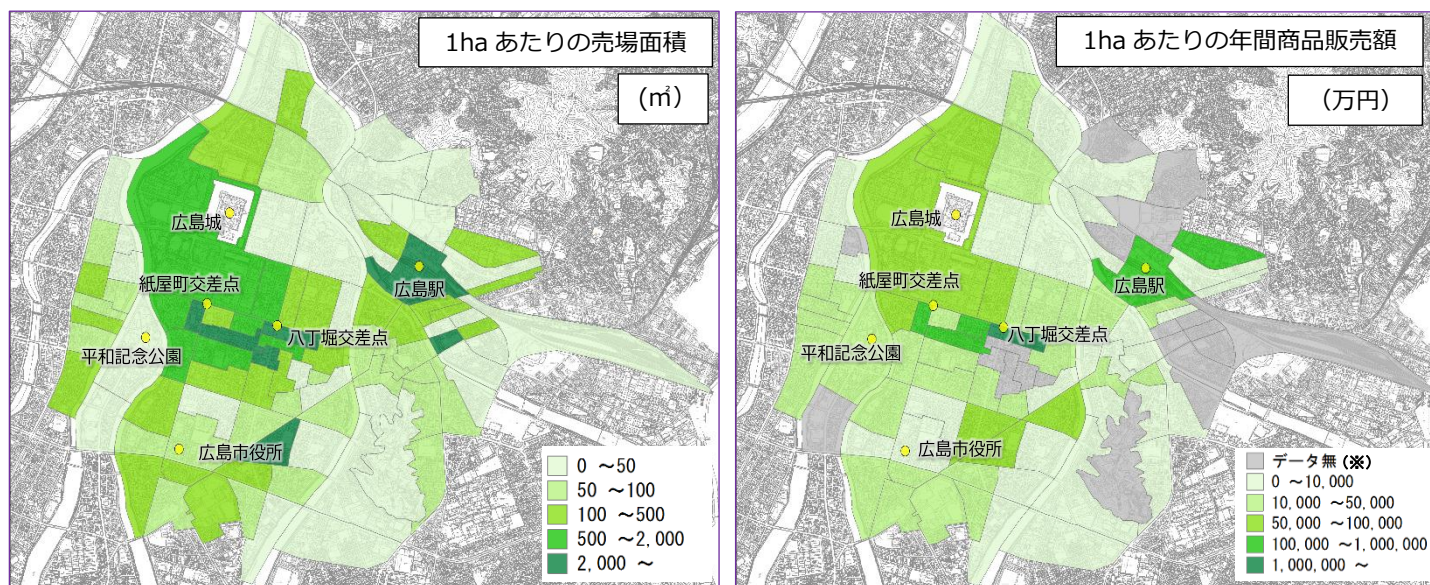
ア 都心の主な商業施設



(資料：全国大型小売店総覧 2014 (東洋経済) から店舗面積 5,000 m²以上のものを引用)

- ・紙屋町、八丁堀、広島駅周辺の三つの地区に集中している。

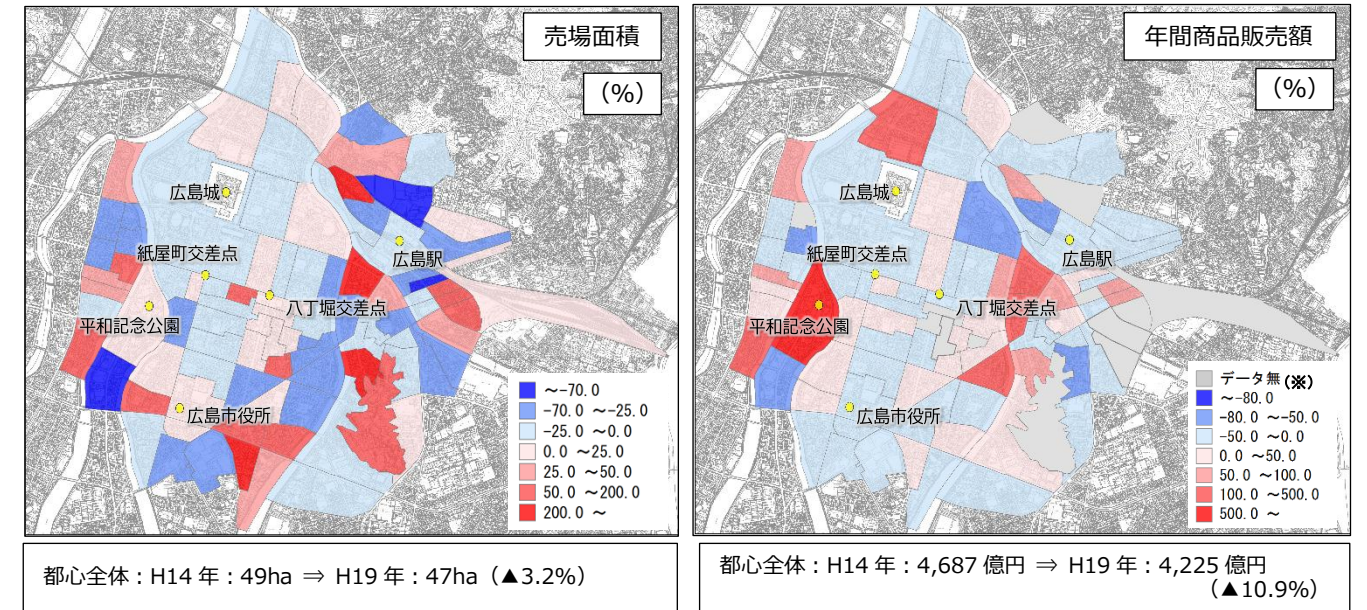
イ 小売業の売場面積及び年間商品販売額 (平成 24 年)【町丁目別】



※ 国が数値を公表していない町丁目
(資料：平成 24 年経済センサスにより作成)

- ・売場面積は、紙屋町・八丁堀周辺と広島駅周辺を中心に集積している。
- ・年間商品販売額は、売場面積の多い町丁目が高くなっている。

ウ 小売業の売場面積及び年間商品販売額の増減率 (平成 14 年～平成 19 年)【町丁目別】



都心全体：H14 年：49ha ⇒ H19 年：47ha (▲3.2%)

都心全体：H14 年：4,687 億円 ⇒ H19 年：4,225 億円 (▲10.9%)

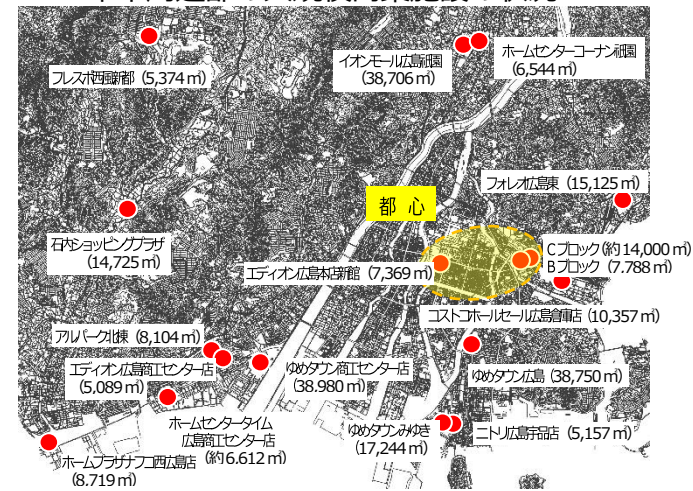
【参考】広島市全域 () 内は対前回増減率

	H14 年	H19 年	H26 年 (速報値)
売場面積	140ha	149ha (+6.1%)	140ha (▲5.7%)
年間商品販売額	1 兆 4,080 億円	1 兆 3,532 億円 (▲3.9%)	1 兆 2,657 億円 (▲6.5%)

※ 国が数値を公表していない町丁目
(資料：平成 14 年、平成 19 年、平成 26 年商業統計調査により作成)

- ・売場面積は、増えている区域もあるが、都心全体では約 3%減少している。
- ・年間商品販売額についても、売場面積と同様、都心全体で約 11%減少している。

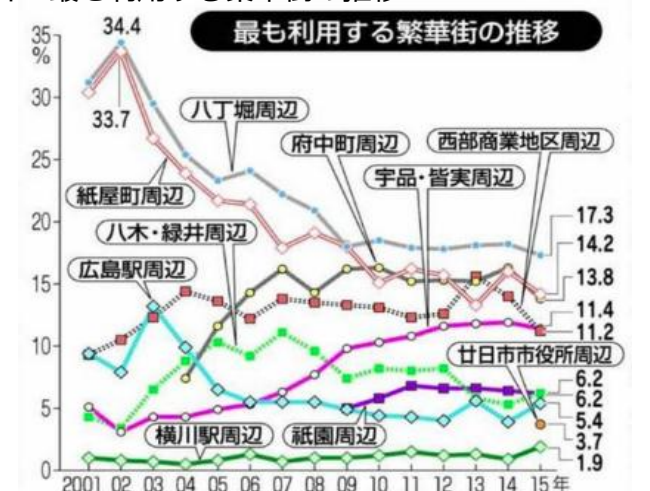
エ 本市周辺部の大規模商業施設の状況



(資料：大規模小売店舗立地法に基づく届け出状況により作成)
(H19 以降の店舗面積 5,000 m²以上のものに限る)

- ・大規模商業施設の新規出店は、周辺部に集中している。

オ 最も利用する繁華街の推移



(資料：広島市広域商圈調査 (中国新聞社 (H27.11.20))

- ・周辺部への大規模商業施設の開業等により、紙屋町周辺、八丁堀周辺及び広島駅周辺の利用は下落傾向にある。近年は横ばい状態である。